

教員名	中村 俊直 (NAKAMURA Toshinao)
所 属	文教育学部言語文化学科
学 位	文学修士 (1979 東京大学) D.E.A. (1982 ポール・ヴァレリー大学)
職 名	教授
URL / E-mail	nakamura.toshinao@ocha.ac.jp

◆研究キーワード

視覚イメージ / 言語記号 / 記号論 / 情報伝達 / 詩学

◆主要業績

総数 (3) 件

- ・写真論 —ヴァレリーからロラン・バルトへ (口頭発表)
- ・Langage et/ou Image --Valery admirateur de Hokusai (フランス語による口頭発表)
- ・「言語」そして／または「イメージ」 —北斎を賞賛するヴァレリー—

◆研究内容

- 1 フランスの19世紀末から20世紀前半に活躍した詩人・批評家のポール・ヴァレリーに関する多角的な研究。さらに彼に関係する文学者や芸術家並びに彼のいきた時代と社会状況に関する総合的な研究。
- 2 視覚イメージと言語記号の両者の機能の比較研究。特に写真、絵画、言語表現の三者の相互影響関係の考察。
- 3 自分自身を語る言説 (自伝、書簡、日記、旅日記など) の機能と形態の特徴の考察。
- 4 日本の近現代の文学者や芸術家の営為にフランスの文化や文学が与えた影響の解明。また逆に日本の芸術がフランスの文学や美術に与えた影響の解明。

◆教育内容

学部

1 自己を語るエクリチュール (自伝、書簡、日記、旅日記など) の諸問題を考察する。この問題に関して特に中心的に扱う作家は19世紀のスタンダールと20世紀のジッドである。小林秀雄の『私小説論』も参照する。

2 フランスの女性の批評家、思想家、精神分析医であるクリステヴァの初期の言語論の考察。

大学院

1 「美術批評」という一つの文学的言説の特異性を考察する。特に中心的に扱うのは、フランスの19世紀の詩人ボードレールの美術批評と、この詩人に若年期に大きな影響を受けたわが国の代表的な批評家である小林秀雄の美術批評である。

2 フランス20世紀の詩人ヴァレリーの代表作の一つであり、且つ又、フランス20世紀の代表的な韻文詩 (定型詩) である『若きパルク』の精密な読解を行う。

◆将来の研究計画・研究の展望

視覚イメージと言語記号の両者の機能を総合的に比較考察する。文化史、社会学、記号論、美術批評、文学批評、情報伝達論などの多様な視点から研究を進める。歴史的にみれば、現代の社会・文化の特徴の一つは、これら二つの表現・コミュニケーションの手段の共存ならびに相互影響であるといえるからである。

◆受験生等へのメッセージ

大学は自由にものを考え、探求することができる場所です。大学での学問の範囲は明確に限定されているわけではありません。従って、はっきりした一つの答えが見つからなくてもよいのです。思考や探求の結果もちろん重要ですが、それに劣らず、あるいはそれ以上に重要なのは、結論に達するまでの過程です。その過程において、たくさんの方のことを考え、調べ、さらにはいろいろ迷うことが、のちのち大きな意味を持ててきます。そのようにして柔軟な思考力や幅の広い判断力を養成することが、大学を卒業してからの人生において大きな力となることでしょう。昔からよく言われるではありませんか、「人生は長く学生生活は短し」と。（少し違うか...）